
カラコロ

真柄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カラコロ

【Nコード】

N0286W

【作者名】

真柄

【あらすじ】

地元の祭りへ十数年ぶりにやって来た青年、佐治。

石階段を上がる途中で、不思議な女の子と出会う。

女の子に手を引かれながら、進む中、幸せという単語に引っ掛かりを覚える。

上り終えると、女の子は母親の元へと駆けて行く。

女の子が幸せと形容していた、綿あめをたべる佐治。

綿あめは、こんなに甘かったのかと思いだしたのだった。

佐治は、境内の石階段を膝に手を置き、登っていた。

お社は未だに見えないのだが、上のほうからは賑やかな祭囃子が、昼間の雰囲気を帯びた生ぬるい風に乗って、なんとか聴くことが出来るところまでは着た。

佐治は、こんなに神社は遠かったものかと、久しく来ていなかった記憶を辿る。

ぼうつと頂上へと向けていた視線をふと、横へ向けると、一人の女の子が佐治の真横に立っていた。黄昏時の暗がりでも映える、黄色の浴衣が目眩しく思えた。

「ねえ。早く行こうよ」

女の子は佐治の手を引き、神社へと進もうとする。

佐治が呆けていたにしても、先ほどまで一人だったはずの石階段に、突如として現れた女の子に不信感否めない。石灯笼いとうとうの僅かな灯りと傾く夕日に照らされ、女の子の顔は、陰影深くなんとも大人びて見える。体型と声音は年相応だが、表情だけかけ離れていくことも、不安要素の一つとなっているだろう。

「早く行かないと綿あめなくなっちゃうよ？」

先ほどよりも幾分か拗ねたように話しかける女の子に急かされ、佐治はなんとか一步を踏み出し始める。

前へと進み始めた佐治に気を良くしたらしい女の子は、下駄音を響かせリズムを刻むように石階段を上る。その後ろを、なんとか付いていく佐治は、なんとも情けなく感じた。

「君は、綿あめが好きなの？」

女の子とは言え、知らない相手と会話もなく登るといふのは、なんとも詰るもので、息苦しさを紛らわす目的も兼ね、佐治は話しかけた。

「大好き！ ママも大好きなんだって」

「へえ」

「ふわふわしてて、真っ白で、雲みたいだもん。お空の雲もきつと甘くて幸せなんだろうねえ」

「雲が幸せなの？」

「違うよ、雲を見ると幸せになれるってこと！」

空に浮かぶ雲を指差し、夢見がちなことを話す年相応の女の子に、佐治はひとまず安心した。

終わりの見えない石階段だが、祭囃子は少しずつ表情豊かに流れてくる。

「お兄ちゃんは、綿あめ好き？」

「んー……そういえばずっと食べてないなあ。どんな味だったか忘れちゃった」

「えー、もったいないなあ。甘い幸せな味がするのに」

女の子は、綿あめだけで幸せになれるのだろう。佐治は纏わりつくような風に反し、自由に揺れる女の子の髪先を細めた眼で見つめた。

「お手軽な幸せだね」

話しているうちに、終わりがやって来た。

「ママー」

女の子は佐治の手から離れ、こちらに駆けってくる『ママ』に向かい走り出した。『ママ』は、佐治に深々と頭を下げ、女の子と人ごみへ消えていった。

佐治は、しばらくその母子の後ろ姿を細めた眼で見送った。

参道の両脇には、屋台が軒を連ねる。

佐治は、石階段のすぐそばにあった屋台へと足を進めた。

「おじさん、一つちょうだい」

「彼女への手土産かい？」

「違うよ。初恋の子が好きだったこと思い出してさ。久しぶりに

食べたくなっちゃった」

「青春だねえ。はいよ」

女の子の着ていた浴衣と同じ、黄色い袋に入った綿あめを佐治はかじった。

女の子と話している時、初恋の子を思い出していたのだが、それもそのはずだ。

初恋から十数年。彼女が着ていた浴衣は、娘へと受け継がれたようだ。

「あつまいなあー」

空を見上げると、夕日色に照らされた綿あめがぶかぶかと浮かんでいる。

佐治がかじった綿あめは、懐かしい、幸せの味がした。

（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

処女作ですので、至らない点が多々あります。

何か意見や改良点などがありましたら、ぜひ教えていただけたら幸いです。

8 / 23 に編集いたしました。こちらは、編集済みのものとなっております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0286w/>

カラコロ

2011年10月9日14時55分発行